

令和元年度第2回市川市介護保険地域運営委員会

日時：令和元年11月15日（金）

午後2時～3時30分（予定）

場所：市川市仮本庁舎 4階 第1委員会室

会 議 次 第

1 開会

2 議題

- (1) 令和元年度上半期地域包括支援センターの運営評価報告について（報告）
- (2) 介護予防支援事業等業務の委託事業者の追加について（報告）
- (3) 地域密着型サービス事業者の指定及び指定更新について（報告）

3 その他

4 閉会

《配布資料》

- ・資料1-1 令和元年度上半期地域包括支援センターの運営評価報告について
- ・資料1-2 令和元年度上半期 高齢者サポートセンター運営評価結果一覧
- ・資料1-3 令和元年度上半期 特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫など
- ・資料2 介護予防支援事業等業務の委託事業者の追加について
- ・資料3 地域密着型サービス事業者の指定及び指定更新について

令和元年度上半期地域包括支援センターの運営評価報告について

運営評価の手順について

1. 目的

地域の高齢者とその家族を支援する中核的な役割を担う高齢者サポートセンターについて、一定の基準に基づいて運営・活動を評価し、その結果を活かしてより良い取組みを推進することを目的とする。

2. 評価期間

上半期（4月～9月）及び下半期（10月～3月）の計2回

3. 評価方法

- (1) 自己評価（高齢者サポートセンター運営評価チェックリスト）
- (2) 提出書類からの評価（事業計画書及び月別実績報告書等）
- (3) ヒアリング

4. 評価の流れ

- (1) 被評価者は高齢者サポートセンター運営評価チェックリストに基づき、自己評価を行う。
- (2) 評価者は評価方法にしたがって行政評価を行う。
- (3) 評価者は(2)で実施した評価内容を取りまとめ、評価結果報告書を作成する。

- ア 評価者 介護福祉課長及び担当職員
 イ 被評価者 高齢者サポートセンター職員
 ウ 評価項目 高齢者サポートセンター運営評価票

評価基準

評価点	評価水準	水準のめやす
4	最も肯定的な評価	80%以上の達成率
3	2より肯定的な評価を表す	80～50%程度の達成率
2	1より肯定的な評価を表す	50～20%程度の達成率
1	最も否定的な評価	20%未満の達成率
N	該当事例なし	

令和元年度上半期 高齢者サポートセンター運営評価結果一覧

【自己評価】

項目	配点	センター名														
		国府台	国分	曾谷	大柏	宮久保 下貝塚	市川 第一	市川 第二	真間	菅野 須和田	八幡	市川 東部	信篤 二俣	行徳	南行徳 第一	南行徳 第二
I センターの行う業務に係る方針に関すること																
① 地域包括支援センターの役割・機能	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
② 日常生活圏域内の課題の把握と取組	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
③ 公正・中立性確保に関する取組	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
II センターの運営に関すること																
1. 運営全体に関するもの																
④ 組織・運営体制	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	15	16	16	16
⑤ 個人情報の保護	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
⑥ 利用者満足の向上	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11	12	12
2. 個別の業務に関するもの																
⑦ 総合相談支援業務	12	12	12	12	12	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
⑧ 権利擁護業務	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
⑨ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	20	20	20	20	19	20	20	20	20	19	20	20	20	20	20	20
⑩ 介護予防に係るケアマネジメント業務	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
⑪ 市事業との連携																
認知症総合支援事業	12	12	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11	12
在宅医療・介護連携推進事業	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
⑫ その他(独居高齢者支援)	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	8
III その他の事項																
⑬ 窓口開設日及び開設時間	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
⑭ 設備等	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
⑮ 職員体制	8	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	8	8	8	7
⑯ その他	40	39	40	40	40	40	40	39	40	40	40	40	40	40	39	39
総計	200	198	199	200	197	199	200	199	200	199	200	199	199	199	197	198
達成率(%)	100%	99.0%	100%	100%	99%	99.5%	100%	100%	100%	99.5%	100.0%	99.5%	99.5%	99.5%	98.5%	99.0%

自己評価平均 198.9 達成率 99.4%

【行政評価】

項目	配点	センター名														
		国府台	国分	曾谷	大柏	宮久保 下貝塚	市川 第一	市川 第二	真間	菅野 須和田	八幡	市川 東部	信篤 二俣	行徳	南行徳 第一	南行徳 第二
I センターの行う業務に係る方針に関すること																
① 地域包括支援センターの役割・機能	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
② 日常生活圏域内の課題の把握と取組	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
③ 公正・中立性確保に関する取組	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
II センターの運営に関すること																
1. 運営全体に関するもの																
④ 組織・運営体制	16	16	16	16	15	16	16	16	16	16	16	16	15	16	16	16
⑤ 個人情報の保護	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
⑥ 利用者満足の向上	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11	12	12
2. 個別の業務に関するもの																
⑦ 総合相談支援業務	12	12	12	12	12	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
⑧ 権利擁護業務	16	16	16	16	16	16	16	16	15	16	16	16	16	16	16	16
⑨ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	20	20	18	20	18	20	20	20	20	18	18	20	20	18	20	20
⑩ 介護予防に係るケアマネジメント業務	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
⑪ 市事業との連携																
認知症総合支援事業	12	12	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11	12
在宅医療・介護連携推進事業	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
⑫ その他(独居高齢者支援)	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	8
III その他の事項																
⑬ 窓口開設日及び開設時間	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
⑭ 設備等	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
⑮ 職員体制	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	8	8	8	7
⑯ その他	40	39	40	40	39	40	39	39	39	40	39	39	39	40	39	37
総計	200	199	197	200	194	199	199	199	198	198	197	198	198	197	197	196
達成率(%)	100%	99.5%	98.5%	100.0%	97.0%	99.5%	99.5%	99.5%	99.0%	99.0%	98.5%	99.0%	99.0%	98.5%	98.5%	98.0%

行政評価平均 197.7 達成率 98.9%

令和元年度上半期

特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫など

西部圏域 高齢者サポートセンター国府台

高サポ＝高齢者サポートセンター、そら＝市川市生活サポートセンターそら、えくる＝基幹相談支援センターえくる、がじゅまる＝中核地域生活支援センターがじゅまる

項目		内容	
I 運営に関するもの	④組織・運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 「国府台たより」等を各自治会へ配布し、地域の回覧板・掲示板に貼ってもらうことで高サポの周知は進んでいるが、抜けていた地域があることが把握できた。 個人情報に関して、持出し禁止の再確認を行った。 	
	⑥利用者満足の上	<ul style="list-style-type: none"> 苦情は無かった。 	
II 個別の業務に関するもの	⑦総合相談支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 趣味や集いの場を「国府台たより」にまとめて地域住民に配布した。 民生委員と共に独居高齢者訪問をして顔合わせをしている。 担当地区の店舗や医療機関へ高サポの周知をしたところ、コンビニからは反応があり新たな関係機関とのネットワークが構築できた。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 出張相談窓口を地域住民に活用してもらえるよう周知に努める。 「国府台たより」等が抜けていた地域については個別訪問等に対応し、高サポの周知に努める。
	⑧権利擁護業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> サロンや地域の会議で、詐欺被害防止啓発を行なったことで、自治会長等の意識向上につながった。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケアシステム相談員向けに成年後見制度の研修を社会福祉協議会と連携して行う。
	⑨包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 西部圏域ケアマネ研修を実施するにあたり、介護支援専門員にアンケートを取り、研修会を企画した。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議の報告を民生委員協議会や地域ケアシステム推進連絡会などで行い、地域からも活用してもらうよう働きかける。
	⑩介護予防に係るケアマネジメント	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 予防プランに関して職員間で十分検討している。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 予防プラン数の増加はないため、今後も家族や社会資源を活用しながら自立を継続できるよう働きかけていく。
	⑪市町村事業との連携	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 薬局への挨拶回りを実施し、関係機関のネットワーク構築に努めた。 社会福祉協議会と連携して地域ケアシステム相談員に対する研修を2回企画した。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 地域の徘徊高齢者の見守り支援について考えるうえで、地域に認知症理解を深めてもらうための方法を検討していく。
	自由記載		<ul style="list-style-type: none"> 国府台町会の防災訓練へ参加して、地域活動の把握(特に災害時の動き)と連携強化を図った。 地域内のカフェや大学、寺等に認知症支援の啓発をしていくことで認知症カフェに繋げたい。

令和元年度上半期

特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫など

北部圏域 高齢者サポートセンター国分

高サポ＝高齢者サポートセンター、そら＝市川市生活サポートセンターそら、えくる＝基幹相談支援センターえくる、がじゅまる＝中核地域生活支援センターがじゅまる

項目		内容	
I 運営に関するもの	④組織・運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の申し送りでケースの共有を行い、その他随時ケース検討を行っている。 	
	⑥利用者満足の向上	<ul style="list-style-type: none"> 苦情はなかった。 来所件数は増加している。 	
II 個別の業務に関するもの	⑦総合相談支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> いきいき健康教室・サロンの啓発活動、依頼講座への講師派遣をすることで高サポの周知や啓発活動を実施し、ネットワークの構築を行った。 市内に限らずさまざまな医療機関から退院支援の相談へ対応した。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の支援の振り返りを継続して実施していく。
	⑧権利擁護業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 消費生活センターからの情報を活用し、消費者被害防止の情報提供を行った。 警察署に協力してもらい、認知症カフェで啓蒙啓発を行った。 後見相談担当室と協力して支援にあたった。 成年後見制度の講座を住民向けに開催し、周知・啓発を行った。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 虐待ケースの対応など権利擁護の業務について、三職種・加配職員の誰でもが対応できるようにしたい。
	⑨包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 北部圏域の『主任ケアマネ連絡会』、『ケアマネ研修会』を開催し、地域ケア会議の活用を促すため、地域ケア会議をテーマとして行った。 地域交流会を開催し、民生委員、地域ケア相談員、医療ソーシャルワーカー、介護支援専門員で意見交換を行い、地域包括支援ネットワークの構築につなげた。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議を開催する。前期は本人・家族の了解が得られず開催が難しいケースがあった。 下半期も北部圏域の研修会のテーマで地域ケア会議を取り上げ、介護支援専門員とともに学ぶ機会をつくっていく。
	⑩介護予防に係るケアマネジメント	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 『ケアマネ応援カフェ』を開催し、介護予防支援・介護予防ケアマネジメントの流れとともに社会資源の活用などを一緒に確認した。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防支援・介護予防ケアマネジメントの委託できる事業所が見つかりにくく、調整に時間を要する。 総合事業の他市サービス利用に関しての理解を深める必要性を感じている。
	⑪市町村事業との連携	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 地区を決め、ひとり暮らし応援カフェを開催し、エンディングノート・成年後見制度・日常生活自立支援事業、消費者被害防止、認知症についてなどの情報提供と、高齢期の生活について意見交換を行った。 認知症カフェの準備等を継続して住民に協力してもらっている。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議の出席依頼が多くあり、地域の活動につなげるように検討する。
自由記載		<ul style="list-style-type: none"> 職種に関わらず、すべての業務に関われるよう取り組んでいる。 	

令和元年度上半期

特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫など

北部圏域 高齢者サポートセンター曾谷

高サポ＝高齢者サポートセンター、そら＝市川市生活サポートセンターそら、えくる＝基幹相談支援センターえくる、がじゅまる＝中核地域生活支援センターがじゅまる

項目		内容	
I 運営に関するもの	④組織・運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員、地区社会福祉協議会、関係機関、地域の商店や医療機関等から相談に対応し、利用者のニーズ、地域の多様なニーズの把握に努めている。 毎日職員間で情報共有を行っている。新規相談はいつ、誰が（基本的に2名で）訪問するかを決定し、支援方針やケース検討は週1回実施している。 	
	⑥利用者満足の向上	<ul style="list-style-type: none"> 苦情は無かった。 	
II 個別の業務に関するもの	⑦総合相談支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 毎日ミーティングで相談について情報共有し、支援方針やケース検討についても週1回職員間で検討する機会を設けている。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 地域ネットワークの重要性と権利擁護について、地域の方々に理解を深めていただけるよう、研修会や勉強会の機会をつくる。 リスクを伴うケースは、早期に関係機関との連携し、支援体制を整える。
	⑧権利擁護業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 成年後見制度については、より身近な制度として家族介護教室を活用し、啓蒙活動に努めることができた。 虐待対応について、職種に関係なく研修に参加し、職員のスキルアップを目指した。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 成年後見制度を地域住民に対し身近な制度として分かりやすい資料（チラシ等）を活用し、地域の集まりやサロン、自治会等で啓蒙活動を進めていく。
	⑨包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議を「独居徘徊高齢者の地域での見守りについて」をテーマに開催し、社会福祉協議会、民生委員、自治会長等とのネットワークの強化、課題に対する役割分担を確認することで課題解決の場として積極的に活用できた。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員からの要望により10月に障害者施策、12月に高サポ国分と合同でアセスメントに重点を置いたケアプランの作成方法についての勉強会を開催する。
	⑩介護予防に係るケアマネジメント	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 相談段階から介護予防の視点に立ったプラン作成を利用者とともに進め、地域活動を含む多様な社会資源をプランに位置付けている。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 今年度サロンが減ってしまったため地域の社会資源を把握、情報共有し、介護支援専門員へと発信する（社会資源マップは定期的に更新する）
	⑪市町村事業との連携	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェを2か月に1回開催。カフェのチラシにボランティアの参加を呼び掛ける内容を入れ、サロンや自治会へ配布した。認知症の相談があった場合は必ずカフェへの参加を呼び掛けている。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々の認知症への理解を促すために、認知症カフェに地域のキャラバンメイトや認知症サポーターに参加していただき、地域の見守り体制を広めていく。
自由記載		<ul style="list-style-type: none"> 独居高齢者について、民生委員や関係機関等からの情報のほか、地域からも情報を得ながら状況を把握することができている。家族状況を早期に把握することで、将来的に成年後見制度の申し立てが必要かどうかの見立てを行っている。 	

令和元年度上半期

特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫など

北部圏域 高齢者サポートセンター大柏

高サポ＝高齢者サポートセンター、そら＝市川市生活サポートセンターそら、えくる＝基幹相談支援センターえくる、がじゅまる＝中核地域生活支援センターがじゅまる

項目		内容	
I 運営に関するもの	④組織・運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の保護について再確認し、持ち出し簿の整理と持ち出す時にも最小限にする努力を行っていくことを徹底した。 	
	⑥利用者満足の上	<ul style="list-style-type: none"> 苦情は無かった。 	
II 個別の業務に関するもの	⑦総合相談支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 相談のニーズを受け止め関係機関と適切な支援に繋げるための連携と協働が出来た。本部・出張所の相談件数、内容の統計を地区ごとに毎月出し分析に役立てる。 エリア内の独居、認知症を地図に落とし込みセンター内での見える化に努めた。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 相談内容を分析していくことで、高サポとして地区ごとの地域課題把握していく。
	⑧権利擁護業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 身寄りのない独居高齢者で将来の不安を繰り返し訴える方等に、成年後見制度や日常生活自立支援事業について説明に努めた。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 成年後見制度の活用について介護支援相談員、地域住民向けに講座を開く等周知活動に力をいれていく。
	⑨包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 年間2回『大柏地区ケアマネ研修会』を開催している。地域ケアシステムのマグネットを紹介し、介護支援相談員に活用してもらった。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内の居宅介護支援事業者がどうしたら地域ケア会議を活用できるのかを高サポとして検討し、会議の開催につなげてください。
	⑩介護予防に係るケアマネジメント	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> すぐに介護保険サービスに結びつけるのではなく、どんな解決策があるのか、本人の強みやできることに着目しながら自立支援の観点からの目標設定しサービス利用できるよう助言した。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内で職員のスキルアップのため定期的に研修会等を行っていく。 要支援者のうちから権利擁護のアプローチが必要かどうかの視点を持ち、相談支援を実施していく。
	⑪市町村事業との連携	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 認知症初期支援チームに繋げたケースについて地域支えあい課と円滑に連携をとったことで、上手く支援につながった。 民生委員と居宅介護支援専門員のネットワーク作りのため交流会を開催した。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケアシステムの相談員との連携を積極的に行っていき、地域課題の把握に努める。 独居・身寄りのない方について、地域住民や民生委員との連携を深めて見守りのネットワークを築いていく。
	自由記載		<p><市からの期待したい取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> 大町第二団地の出張相談窓口が地域の方々に有効的に活用される方法を検討してみてください。

令和元年度上半期

特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫など

北部圏域 高齢者サポートセンター宮久保・下貝塚

高サポ＝高齢者サポートセンター、そら＝市川市生活サポートセンターそら、えくる＝基幹相談支援センターえくる、がじゅまる＝中核地域生活支援センターがじゅまる

項目		内容	
I 運営に関するもの	④組織・運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者人口などはわかりやすく掲示している。 相談や地域からのニーズとして若年性認知症についての対応がある。 	
	⑥利用者満足の上	<ul style="list-style-type: none"> 苦情はなし。 委託の際は公正中立に行っている。 朝夕にミーティングを実施して三職種で情報共有し、月2回はカンファレンスにてケース検討を行っている。 	
II 個別の業務に関するもの	⑦総合相談支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 「相談受付票」と「相談記録」を作成し適切な相談関係を築くため相談経路を意識して対応している。 相談内容の分類は、定期的にグラフ・資料作成し地域住民へ情報提供を行っている。 地域の診療所・クリニックを把握し、連携しやすいよう当センターのリーフレットを配布した。リーフレットには相談コメントが記入できるようにした。 地域ケアシステムにおいて出張相談窓口を月1回開催している。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 地域マップを更新するため住民の協力を得て地域情報を入手する（アンケート） 病院以外にも、理解と協力を得るため診療所・クリニック・薬局・郵便局へセンターを周知する 総合相談台帳の整備・更新し、必要時に早期支援介入できるよう独居高齢者や高齢世帯を現状把握する。引き続きひとり暮らし高齢者登録を促進する。
	⑧権利擁護業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 成年後見制度要否についてはセンター内で判断し、市長申し立てが必要な場合は市と協議した。 社会福祉協議会の成年後見相談担当室と連携できている。 虐待通報を受けた後は早急に市へ報告し、事実確認後は援助方針を関係者へ通知した。 消費者被害防止のため市川警察署と打ち合わせて民生委員・地域ケアシステム相談員・住民へ対し情報提供を含め講話を行った。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 市川市消費生活センターの「消費生活情報」の内容について認知症カフェや家族介護教室等で伝達する。
	⑨包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 独居高齢者や高齢世帯へ「ひとり暮らし登録」を促進し、民生委員と連携を図った。 住民から自治会長、高サポに困難事例相談があり、地域ケア会議を開催した。 社会福祉協議会（コミュニティワーカー）と定例会を開催し介護保険外のサービスの把握と情報共有を行った。 介護支援専門員の相談は主にケアプランであるが、地域視点を持つため相談記録に「地域のつながり」の項目を設けた。 北部圏域主任介護支援専門員連絡会議では「地域ケア会議の定義」と「北部圏域の現状と課題」を説明し「地域ケア会議と介護支援専門員の関係性」について意見交換の場を設けた。 ケース依頼は書面を用い、計画性をもって介護支援専門員等に経過確認し必要に応じて協議又は助言を行っている。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議開催後は、変化をモニタリングし地域課題として圏域でも共通理解する。 北部圏域介護支援専門員研修会において、今年度テーマとしている「地域ケア会議」をより理解深めるために模擬事例（ロールプレイ）を導入していく。（企画については北部圏域主任介護支援専門員連絡会議で検討していく）
	⑩介護予防に係るケアマネジメント	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 新規依頼は書面にて行い、担当する介護支援専門員と共にアセスメントし必要時担当者会議に同席した。 医療関係等のカンファレンスや会議に同席し、支援方針について助言した 困難事例の相談はセンターの責任者として、居宅介護支援事業所の管理者と協議し展開について共通理解に努めた。 地域住民からの問題提起は地域ケア会議を通じて個別課題を明確し、共通理解を目標に地域住民と関係機関のつながりを援助した。 早急な支援の要否はセンター内で検討し、暫定プランの照会を書面にて行い介護支援専門員と共にアセスメントし必要なサービスを計画した。また、暫定プランを台帳管理しそれぞれの介護支援専門員から経過報告を受けた。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 個別課題と地域資源の活用法をアセスメントし、個別問題の解決へ取り組めるようケアマネジメントをする。
	⑪市町村事業との連携	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェは介護サービス事業所（地域密着型通所介護）と地域ケアシステムに協力を得て実施した。（年6回のうち3回済み） 訪問介護事業所へ認知症への理解に向け「認知症対応スキルアップ研修」実施した。 生活困窮者の個別事例を通じて、課題と支援の視点をセンター内で事例研究を行った。 障害福祉制度の相談支援事業所からの事例紹介について、会議に出席し関係者間と相談関係を図った。 医療ニーズ、医療連携する事例についてはカルテに目印をつけ台帳管理している。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェは介護サービス事業所（地域密着型通所介護）において定着しており、今後も定例依頼する。また、介護者交流会についても実施を提案していく。
自由記載		<ul style="list-style-type: none"> 外部研修は研修参加報告書を作成し、伝達講習を行っている。 困難事例については、法人内カンファレンスを実施し事例検討を行っている。 ケースの担当者は主担当者と副担当者を決め援助計画を立てる。計画的な観察を行いカンファレンスでは協議・決定する。 社会福祉協議会のコミュニティワーカー等と、地域資源マップの作成に向け随時意見交換を行っている。 居宅介護支援事業所が主催する事例検討会・研究会に出席した。 	

令和元年度上半期

特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫など

西部圏域 高齢者サポートセンター市川第一

高サポ＝高齢者サポートセンター、そら＝市川市生活サポートセンターそら、えくる＝基幹相談支援センターえくる、がじゅまる＝中核地域生活支援センターがじゅまる

項目		内容	
I 運営に関するもの	④組織・運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 担当地区の高齢化の現状および相談者の分析を行い、地域の傾向や課題の発見につなげた。 	
	⑥利用者満足の向上	<ul style="list-style-type: none"> 苦情なし。 事業所を紹介した際は、どこの事業所に紹介したかを一覧表に残し、偏らないよう配慮している。 	
II 個別の業務に関するもの	⑦総合相談支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 行政、医療機関、保健所、そら、えくる、認知症初期集中支援チームなど常に他機関との協働を視野に入れて相談に対応している。 相談状況の把握として、相談者リストに、誰からの相談なのか集計できるよう項目を追加した。 平成30年度に受けた申請書類について、種別と申請者の住所で集計・分析を行い、相談状況の把握を行った。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関ネットワークを通じて早期把握の目的でサロンや体操、民生委員地区協議会等の参加を継続する。 高サポ職員の精神疾患への知識の向上、対応力の向上を図りたい。 相談状況の把握を継続し、昨年度との比較・分析を行いたい。 昨年作成した社会資源マップの更新を行い、社会資源情報の充実を図りたい。 (介護保険施設や有料老人ホーム等については近隣市町村まで含めた情報提供を検討)
	⑧権利擁護業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 認知症のある独居高齢者について、介護支援専門員等と協力しながら居住継続支援を行った。 経済的な問題が有り、フォーマルな支援の対象外のケースの対応に難しさを感じている。 虐待ケースは介護福祉課、介護支援専門員等と協力し、迅速な対応を心がけている。 終了した案件、結果的に虐待ではなかった案件についても、継続的な支援を行なっている。 認知症に関する講座や認知症カフェ等で成年後見制度・消費者被害防止等の情報提供を行った。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 病識がなく介入を拒否する認知症のある独居高齢者へ継続的に支援を行っていく。 成年後見制度への理解促進として、認知症高齢者を支援する介護サービス・施設の情報と併せて成年後見制度にかかわる情報を提供し、制度への理解を進めていきたい。 介護支援専門員や介護サービス事業者に対し、虐待防止の視点や発見時の通報等の情報発信をしたい。 介護支援専門員・介護サービス事業者等を対象とした消費者被害防止講座を開催していきたい。
	⑨包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 居宅介護支援事業所の定例会に参加し、事業所の状況把握や高サポとの関係強化を図った結果、介護支援専門員からのケース相談が増えている。 介護支援専門員からの相談については、助言・情報提供だけで対応が難しい場合、関係機関につなぎ、高サポ職員も関係者会議に出席する等の支援を行なっている。 圏域の高サポ（3カ所）合同研修会にて、介護支援専門員等を対象に事例検討を行なった。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 定例会への継続的な参加や介護支援専門員からの相談対応を通じ、コミュニケーションの円滑化を図り、居宅介護支援事業所との更なる関係強化につなげたい。 高サポ主催の事例検討会を予定している。 介護支援専門員との関係強化に向け、ニーズに応える研修会を開催していく。 介護支援専門員と協力し地域ケア会議の活用を進めていきたい。
	⑩介護予防に係るケアマネジメント	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成に向けた記録用のカレンダーや、口腔体操のプログラムなど、オリジナルの資料を作成し、利用者個々のニーズに応える介護予防支援を行なってきた。 予防プランを外部委託する際に、特定の事業所に集中しないよう、それまでの委託件数を考慮しながら委託先を検討している。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 委託ケースの担当者会議（初回・更新時）に出席できるよう声かけを行なっていきたい。 自立支援に向けた口腔ケアや快眠等の情報提供を行い、介護予防の取り組みを推進していく。 プランに位置づける取り組みや、介護予防支援にかかる社会資源についての情報を、地域の介護支援専門員にも提供していきたい。
	⑪市町村事業との連携	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 銀行、郵便局、コンビニに訪問し高サポの活動をPRし、ネットワークの構築を行った。 エンディングノートの活用についての講座を開催し、社会福祉協議会に講師をお願いした。 ケアシステムにて配食の活用講座を開催し、地域ケアシステムの周知と独居高齢者の利用を促した。 老人会から依頼があり、認知症や介護予防に関する講座を開催した。高サポの周知につなげた。 ごみ屋敷のケースについて地域ケア会議を開催し、関係機関等とのネットワーク構築が図られた。 介護支援専門員等の専門職の他、近隣住民等も関係者会議に参加し、認知症高齢者の見守り体制の構築を図った。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 地域の薬局に対して高サポの活動のPRし、地域の見守りネットワークの充実を図りたい。 認知症が疑われるケースについて、適切な受診ができるよう、情報提供の工夫・充実を図りたい。 地域の支援機関と交換研修等を行い、対応能力の向上及び相互理解と関係構築を図りたい。 ごみ屋敷のケースについて、継続的に地域ケア会議を開催し、解決につなげたい。 小規模多機能型居宅介護・グループホームと協力し、サービスや施設等の情報提供を行い、認知症の理解促進を図りたい。
自由記載		<ul style="list-style-type: none"> 多様な手段を使い独居高齢者との関係構築、介護予防、住居で生活するための継続支援を進めていきたい。 介護支援専門員から高齢者の免許返納問題の相談が入り、大きな課題となっている。高サポからの説得も依頼されるものの実際には難しく、何らかの対応が必要と感じている。 前期に比して委託先の確保がより困難になっており、受けてくれる介護支援専門員を探すことに大きな負担を感じている。（要介護のプランについても受け入れが難しい状況） 	

令和元年度上半期

特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫など

西部圏域 高齢者サポートセンター市川第二

高サポ＝高齢者サポートセンター、そら＝市川市生活サポートセンターそら、えくる＝基幹相談支援センターえくる、がじゅまる＝中核地域生活支援センターがじゅまる

項目		内容	
I 運営に関するもの	④組織・運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 朝のミーティングでケースの共有を行っている。 定例会議を3～4回/月開催し、職員間でケースの進捗や支援計画について共有している。 三職種で困難ケースの検討を行っている。 	
	⑥利用者満足の向上	<ul style="list-style-type: none"> 苦情はなかった。 事業所を紹介した際は、紹介先を一覧表に残し、偏らないよう配慮している。 	
II 個別の業務に関するもの	⑦総合相談支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 郵便局や新しいクリニックや保健センター、コンビニ等とネットワークを構築した。 民生委員地区協議会の他、地域ケアシステム会議など出席し地域の状況について共有した。 高齢者が利用している店舗へ足を運び社会資源マップを作成中である。 マンション管理人等とケースを通じ、認知症などの対応について話す機会を持っている。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 継続支援ケースの進捗管理を行い、見える化できる一覧表を作成し共有していきたい。 1回/週の定例会議で事例検討を深めることで職員全体のスキルアップを行っていく。 個人のニーズ把握と社会資源の情報収集に努め、効果的に活用していきたい。
	⑧権利擁護業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 成年後見制度の相談の際は、後見相談担当室や後見専門職に依頼し、申立て支援をしている。 成年後見制度研修に参加し、理解を深め、制度概要の説明できるようにしている。 高齢者虐待はチームで役割分担し、えくるやがじゅまる、生活支援課等関係機関と協働した。 介護支援専門員の相談を受け、消費生活センターと連携し解決に至ったケースがあった。 地域の高齢者等に詐欺被害防止の啓発のため情報提供及び注意喚起を行なった。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 地域における消費者被害に関する情報の把握と発信（情報を必要とする高齢者一人ひとりに届くような、地域における効果的な情報提供の工夫が必要） 権利侵害の予防、早期発見に向け地域住民、民生委員、介護支援専門員、介護サービス事業者等へ知識や対応策の普及啓発を行ない、事例や取り組みについて情報共有及び関係機関と連携を図りたい。
	⑨包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 専門職が増え、活発な意見交換ができ、多様化・複雑化しているケースへの対応ができています。 えくるが同一建物内にあり、気軽に相談できる関係ができ、多問題の事例で連携を図った。 65歳以上の障がい者（特に精神疾患）の地域に移行するケースを通じネットワーク構築ができた。 自治会から「地域ケア会議」開催の要望で、精神疾患のある独居高齢者の検討をした。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 多問題のケースが増加し、より迅速かつ的確に多職種でチームアプローチができる検討手段や方法を深めていきたい。 精神疾患だった認知症の相談も増えており、医療をはじめとした連携がさらに必要となってくる。地域移行での連携がさらに円滑にできるようにする。
	⑩介護予防に係るケアマネジメント	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> カナミック上のマネジメント費の設定についても丁寧に確認し、返戻が減るよう努力した。 委託プランの初回の担当者会議には必ず出席し、ケアプランとサービス内容の整合性を確認している。更新時もある変化のあるケースは担当者会議に出席しケアプランの内容を確認している。 住所地特例のケースで、各市町村との対応方法をまとめ、適切な対応を心掛けた。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 高サポ内での介護予防に関して、多様な地域の社会資源をプラン作成に取り込むための理解と手法を深めていきたい。 三職種で高齢者サポートセンター内での研修を行っていく。
	⑪市町村事業との連携	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員と民生委員で交流会を開催。お互いの役割を知り顔の見える関係づくりを行った。 地域ケア会議は上半期2件実施。1件は地域住民から声上がり、地域ケア会議の理解と意義が浸透している事を認識した。1件は、家族が参加し、会議をきっかけに家族・地域・事業所との連携が深まった。また、企画運営を主任介護支援専門員以外の職員が行った。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が通うコンビニ等から早期に相談が入る関係づくりを構築していく。必要に応じて認知症サポーター養成講座開催などつながる支援を行っていきたい。 独居で特に男性のセルフネグレクト傾向にある方の支援方法についてツールを確立し活用していきたい。
自由記載		<ul style="list-style-type: none"> 今年度から「ケアマネワンポイントアドバイス会」から「事例検討会」に内容を変化させ、地域の介護支援専門員が直面している事例や振り返りをしたい事例を、スーパービジョンを活用し一緒に検討した事は、関係性がより深まり居宅との協力体制や連携が深まり高サポの役割も事例検討を通じ再認識出来た。 	

令和元年度上半期

特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫など

西部圏域 高齢者サポートセンター真間

高サポ＝高齢者サポートセンター、そら＝市川市生活サポートセンターそら、えくる＝基幹相談支援センターえくる、がじゅまる＝中核地域生活支援センターがじゅまる

項目		内容	
I 運営に関するもの	④組織・運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 狭い地域のため継続ケースは一覧を作成し職員間で情報共有し、誰もが対応できる様にした。また、新規で気になるケースは電話したり、訪問したりと様子を見ている。これらにより、ニーズの把握も行うことができています。 	
	⑥利用者満足の上	<ul style="list-style-type: none"> 苦情はなし。苦情があった場合はマニュアルに従い、臨機応変に対応できるよう体制が整っている。 窓口相談している職員以外、電話や会話中に個人名を出さない様に注意し、机上也整理整頓に気を付けている。 	
II 個別の業務に関するもの	⑦総合相談支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> わかりやすく説明、スピーディーな対応を心掛けた。 地域住民・コンビニ・薬局からも相談が上がり、高サポが相談窓口として認識されてきている。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 相談内容に合わせ各関係機関と連携を取り、関係者会議・地域ケア会議を経て解決していく様にする。 サービスにつながらない人は経過を追い、高サポのPRをしつつ、見守りしていく。
	⑧権利擁護業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ネグレクトの困難ケースに根気よく訪問することで、受診・介護保険の申請・医療サービスにつなげることができた。 独居・高齢者世帯が多いことから、身近に利用できるエンディングノートの説明と記入体験を通じ、終活を感じてもらった。また、独居高齢者には社会福祉協議会と訪問し遺言書作成の説明と理解につとめた。 消費生活センターより消費者被害について、認知症カフェの中で講義を受けた。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 独居で身寄りのない人には遺言書作成など、財産管理の促しを行っていく。 消費者被害の予防も講座毎にチラシを配布し、注意喚起をしていく。
	⑨包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に居宅介護支援事業所の事例検討に参加（他地区含む）。 担当者会議には積極的に参加し、利用者の情報共有・介護支援専門員との関係作りに努めた。 介護支援専門員より相談されたケースについては、継続して後方支援しながら情報共有している。 3高サポ合同の勉強会で事例検討を行うことで、地域ケア会議の周知と活用を広報している。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 包括的継続的支援を行うため、主治医・居宅介護支援事業所など関係機関との情報共有ができる様に、介護支援専門員研修・担当者会議などへ積極的に参加していく。
	⑩介護予防に係るケアマネジメント	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 居宅介護支援事業所への委託については台帳で管理し、公平・中立に行っている。 介護予防ケアマネジメント・介護予防サービス計画のプランにおいては、多様な地域の社会資源の位置付けをお願いしている。 3高サポ合同勉強会で介護支援専門員や、よろず隊から得た社会資源をインフォーマルマップとして作成し、参加者全員に配布した。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員には常に正しい情報を提供できる様に心がける。 個人ファイルのチェックをし書類不足がないようにする。
	⑪市町村事業との連携	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談・実態把握から得た情報をマップにおとし、地域全体が可視化できる様にしている。 認知症高齢者は電話・訪問で見守りを継続している為、今回は保護引き取り立ち合いはなかった。 地域ケアシステム・コミュニティワーカー・高サポと連携を取り、ケースの相談・対応を話し合った。 他の認知症カフェで認サポが開催され、高サポのPRと認知症に関する広報・啓発につとめた。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 独居・高齢世帯には未受診の方も多いため、特に認知症高齢者を受診やサービスにつなげ、見守りを強化して、関係機関との連携を密にする。 地域に高齢者と障がい者の問題ケースもあるので、関係者会議・地域ケア会議で積極的に関わっていく。
自由記載		<ul style="list-style-type: none"> コミュニティワーカー・多機関・地域関係者とはさらに連携を密にし、ネットワーク強化につなげていく。 	

令和元年度上半期

特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫など

西部圏域 高齢者サポートセンター菅野・須和田

高サポ＝高齢者サポートセンター、そら＝市川市生活サポートセンターそら、えくる＝基幹相談支援センターえくる、がじゅまる＝中核地域生活支援センターがじゅまる、

項目		内容	
I 運営に関するもの	④組織・運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・権利意識の強い地域で、ニーズも多岐に渡るため、朝夕のミーティングで各専門職間で連携できるよう情報共有に努めている。 ・ケースは全職員で方向性を検討し、2人対応（メインとサブ）で抱え込みや自己判断を予防できた。 	
	⑥利用者満足の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情はなし。苦情があった場合は適切に対応できる体制が整備できている。普段から、マナーや態度に気を配っている。 ・相談者のプライバシーを守るために衝立を購入した。 	
II 個別の業務に関するもの	⑦総合相談支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・対応要注意、連絡待ち、継続の3つに分け、3か月ごとにチェックを実施、終結を仕分けした。 ・経過記録に【対応・記録者名】と【次回の動き】を記載するルールを徹底し実行した。 ・認知症・新規申請の場合、現況を文章化し医師や調査員に提供し、本人の状況に見合った認定が取得できるよう支援した。 ・医療情報ファイリングに随時情報を追加し、保健師が更新に努めている。 ・国府台病院医療ソーシャルワーカーと退院から在宅までチーム支援ができた。（医療ソーシャルワーカーと自宅同行訪問2回）
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・相談ケースの進捗の緊急性を共有し、3か月ごとに終結を明らかにさせる。 ・休日、夜間の緊急対応についてフローチャートをそれぞれの自宅に置く。 ・医療連携において新しい情報を得たときは、ファイリング担当者に提供する。 ・認知症や独居の場合は、担当者とペアで全職員が面識を持つようにする。 ・徘徊通報等で男性介護者の介護負担が目立っている。介護者相互の集いで男性介護者に焦点をあてる。
	⑧権利擁護業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度については、問い合わせがあった際にはパンフレットをもとに、いつでも説明ができるよう所内で周知している。介護支援専門員より相談があった際、社会福祉協議会の後見相談担当室と連携し支援を行った。 ・消費者被害の相談は介護支援専門員、消費生活センター、警察署、他高サポと情報共有しながら対応した。また、成年後見制度についても提案を行っている。 ・虐待については市や警察署、介護支援専門員等関係機関と連携しながら対応している。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者被害に関して、12月に開催予定の家族介護教室にて警察署と連携し説明を行う予定にしている。 ・地域での交流会などで成年後見制度について説明をする機会を設け、相談窓口や制度等についての周知、啓発活動を行っていく。 ・虐待ケース対応の継続・支援・見届けを関係機関と連携しながら今後も行っていく。
	⑨包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・委託先、その他（要介護）のケース相談に対応し、介護支援専門員のバーンアウトを予防している。 ・県・市・社会福祉協議会を巻き込み中の精神疾患ケースで市と医師と連携し関係者会議開催、担当介護支援専門員支援継続中。 ・圏域内の介護支援専門員について圏域外とも情報交換し、委託時のマッチングの参考にできた。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援専門員からの相談について、まずは事業所内での話し合いを徹底してもらう。 ・2021年から各居宅介護支援事業所に主任介護支援専門員が配置される。介護支援専門員からの相談は所属居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員を巻き込み、事業所の力量アップと自立を支援する。 ・委託先の開拓を継続する。
	⑩介護予防に係るケアマネジメント	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・委託先ファイルの背表紙に満了月を表示し、書類提出の期限参考にしている。 ・プランの期間が3年の場合、経過と照らし合わせ、本人の変化に対応できているかチェックしている。 ・プランにインフォーマル資源の位置づけをした場合、コメントで評価している。 ・委託先選定方法についてハートページを活用し、利用者・家族のさまざまな希望に添っている。 ・職員間で振り分けリストを参考に、利用者とのマッチングを考慮し、公平・中立な委託をしている。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅介護支援事業所にも行事等のチラシを持って積極的に出向き、各居宅介護支援事業所の介護支援専門員の個性の把握を心掛ける。 ・予防委託を受けた居宅介護支援事業所には、要介護ケースも繋げ、振り分けのバランスを保つ。 ・書類不備にて終結できない委託ケースについて再度、提出を依頼していく。
	⑪市町村事業との連携	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・6月に須和田第三自治会の話し合いに参加し、おたがい様事業や同行訪問について話し合った。 ・須和田ネットワーク（第三自治会）の定期訪問に同行した。 ・医療につながっていないケースで認知症初期集中支援チームと連携中。 ・高サポ行事などにおいて、民生委員会長との情報共有を毎月行っている。 ・新しい地域資源の開拓を行い（コンビニ、商店、病院、「子育て後のお母さん」世代の集まりなど）、エコマップへ可視化した。 ・チラシ配布による高サポの周知。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・10月の地域ケア会議開催（自治会会長宅にて開催予定）。 ・サロンなどに参加し新しい層（子育て中、介護がこれからの年齢など）に高サポの周知を試みる。 ・家族介護教室等の集客について検討し、広報も利用していく。（アンケート、興味関心シートの利用） ・社会福祉協議会：おたがい様事業への協力（地域の資源の再調査と3地域それぞれの簡単な資源リスト作成）
自由記載		<ul style="list-style-type: none"> ・高サポ内で防災の備えについて検討した。（まずは職員の生命維持と安全を考える） ・公衆電話等の位置を確認し、マップを作成した。 ・今後も、必要な物品を優先順位に従って購入する。 	

令和元年度上半期

特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫など

東部圏域 高齢者サポートセンター八幡

高サポ＝高齢者サポートセンター、そら＝市川市生活サポートセンターそら、えくる＝基幹相談支援センターえくる、がじゅまる＝中核地域生活支援センターがじゅまる

項目		内容	
Ⅰ 運営に関するもの	④組織・運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事や会議に参加し、ニーズの把握に努めている。 認知症の方への対応や外出支援（休憩できる場所の確認等）について検討している。 ケース検討等三職種の会議は、定期的に行っている。 内部研修を行い、新しい情報の共有を行っている。 	
	⑥利用者満足の向上	<ul style="list-style-type: none"> 苦情はなかった。 相談者が多いため、高サポには常時2人は残るよう工夫している。 相談者のプライバシー保護のため、仕切りを上手く利用している。 公正、中立に委託先を選定している。 	
Ⅱ 個別の業務に関するもの	⑦総合相談支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 来所者への事前アンケートシートの活用により、基本情報の収集や主訴の把握が効果的・効率的になった。 急な来談者や圏域外の相談に多く対応している。急な来所者にとって、事前アンケートシートの活用は待たされた印象が少なく、相談内容の整理や確認につながっている。 朝夕礼でケース検討・情報共有を実施した。支援目的を月2回の会議で明確にし、主担当以外でもチームケアを提供した。 新規ケースは2人訪問を継続実施した。地区外の継続対応も市と連携しながら実施した。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 限られた時間の中で、その方の支援に必要な情報収集が出来るよう、面談内容を意識し行う。 セルフケアにつながるよう、地域マップを更に活用しやすいよう改良する。 三職種の援助技術を向上させるために振り返りシートを活用したカンファレンスをする。
	⑧権利擁護業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 成年後見制度申立てしたケース（市長申し立て含む）の保佐人、後見人より適宜相談が入り、介護支援専門員との連携を図りながら、後方支援を行った。 夫婦で市長申立てケースの支援を関係課やサービス事業所と連携をし、準備を行った。 事務所内に消費生活センターの情報を掲示した。 郵便局より権利侵害されているケースで相談が入り、連携して対応した。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活自立支援事業や法定後見制度を、住民が地域での生活を継続するための手段として適宜提案していく。 市の制度について、相談者（本人や関係者）が問題解決につながるようわかりやすく提案する。また、制度を周知するためのイベントを開催する。
	⑨包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 虐待状態が解消した後のケースを介護支援専門員と連携を取りながら、必要時訪問対応を行った。 後見人等との連携の際、支援内容で迷いが生じた際の相談を受け、ケアマネジメントを生かして本人の在宅生活が継続できるよう支援を行った。 暫定利用時にも適切な支援サービス利用が行えるよう、介護支援専門員と連携を図り認定が出るまで対応をした。 要介護の医療ケアが多いケースの相談を介護支援専門員より受け、担当者会議に参加をしたり、ケアマネジメントの相談対応をした。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 後見人等が決まった後も在宅生活が継続できるよう、介護支援専門員と本人の支援方針を共有しながらサポートをする。 必要時、介護支援専門員からの相談が入るよう関係作りをし、また、よりよい提案等が行えるよう、インフォーマル資源の情報収集する。
	⑩介護予防に係るケアマネジメント	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 更新時、変更時の担当者会議への参加した。 委託ケースを頼むことで、介護支援専門員との関係作りを行った。 事業対象が適切とアセスメントし、介護予防に繋がったケースが2件あった。 インフォーマルサービスの提案を積極的に実施した。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 委託事業所への給付管理に関する内容の周知も合わせて行っていく。 インフォーマルサービスも含めたプラン作成となるよう助言をする。
	⑪市町村事業との連携	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェを障がいサービスの継続就労支援B型事業所で開催した 地域の祭りに3箇所参加し、高サポのチラシ配布により、周知した。 地域資源についての情報共有を、社協や地域ケアシステム会議等活用し実施した。 「みんなで体操」の参加者より、安否確認や介護相談等必要時の連絡が入り、支援を実施した。 あんしん電話コールセンターと連携を図り、緊急連絡先の情報共有を本人家族同意の上実施した。 市からの依頼を受け、地区外困難ケース対応（身体拘束時の担当者会議の支援・認知症ケアのケアプラン）の後方支援の継続実施を行った。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議を開催する。 圏域での検討により、各関係機関の強みを理解し、それを生かした連携を図ることで、地域課題の解決に繋げていく。
自由記載		<ul style="list-style-type: none"> 地域への貢献として、障がいサービス従事者へ介護保険制度の説明を担当したり、認定看護師取得のための実習受け入れや主任介護支援専門員推薦状の作成等対応した。 ゴミが貯まってしまった方への支援として、介護分野の事業も実施している清掃会社と連携し、住環境の改善を実施した。（4件） 	

令和元年度上半期

特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫など

東部圏域 高齢者サポートセンター市川東部

高サポ＝高齢者サポートセンター、そら＝市川市生活サポートセンターそら、えくる＝基幹相談支援センターえくる、がじゅまる＝中核地域生活支援センターがじゅまる

項目		内容	
I 連携に関するもの	④組織・運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンや自治会の集まりから、認知症や介護予防に関する事への関心が高いため、関連した内容を活動に入れている。 ・会議では、三職種で検討する機会を設けている。 ・職員研修は、法人内で3回実施した。(ケアマネジメント、成年後見制度等) 相談の多い内容はどの職員も同じ説明ができるようにしている。 	
	⑥利用者満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情対応体制は整備されている。苦情は上半期なし。 ・委託先は公正中立に配慮している。 ・プライバシーに配慮し、相談を受けている。 ・依頼講座についてはあらかじめ回数の打ち合わせを行い、要望に応えるようにしている。 	
II 個別の業務に関するもの	⑦総合相談支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・初回訪問は、原則的に2名体制で対応し、担当を決定している。継続的な支援が必要な場合は、月2回の定例会で進捗管理を行ない毎朝ミーティングで、緊急度判断の見直しや市へ報告等の確認を行った。 ・地域のサロン等からの依頼講座を計4回開催した。また、地区内で開催されている「市川みんなで体操」で高サポの周知や案内を行った。 ・昨年度末に完成した「地域資源マップ(減災編)」は、民生委員協議会や地域ケアシステム推進連絡会議等で住民に周知した。事務所内にも掲示し、来所者に知らせることができている。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・総合相談ケースのリストにより、地域別の相談状況・相談内容の分類化が徐々にできるようになってきたが、地域課題の把握や業務の効率化に活かすことができるよう見直しを行っていく。 ・個々のニーズに合わせた社会資源を相談者にわかりやすく伝えられるよう、担当地域内の社会資源(医療機関)の視覚化(マップ作り等)を行っていく。
	⑧権利擁護業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度に関しては、本人や家族等からだけでなく、介護支援専門員からの相談も増えてきている。相談時にはパンフレットを使い、わかりやすくポイントを伝えるよう工夫した。 ・高齢者虐待への対応では、医療機関や介護支援専門員からの相談が増えたため、客観的な状況把握につながるよう、センター内で協議を重ねながら情報収集を実施し、状況に応じた役割分担及び担当者を決定し、早急な対応を行った。 ・消費生活センターからの情報等を地域のサロンや民生委員協議会等で周知した。また、市川警察署とも連携し、地域からの依頼講座内で、警察からの情報提供の機会を作った。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も成年後見制度活用に対する円滑な対応が行えるよう、個々の職員のスキルアップに繋がる体制整備を継続して行う。 ・消費生活センターからの情報等をサロンや民生委員協議会で周知するだけでなく、『いちかわ東部だより』や出前講座(消費生活センター・移動交番)も活用し、地域住民にわかりやすい啓もう活動を行う。
	⑨包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員からの支援困難ケースについて、地域ケア個別会議を3回開催した。地域の方と関係機関の連携体制が整い、課題・目標が設定できた。 ・介護支援専門員が抱える困難事例等について、困難と思われる理由の分類方法を検討した。介護支援専門員からの相談内容から地域ケア会議を提案している。 ・地域の介護支援専門員を対象に「ケアマネほっとサポートの会」を開催した。1回目は『高サポの活用の仕方』について、事前アンケートを取り、高サポの役割などの情報共有を行った。地域資源の情報共有や個々の介護支援専門員に対する支援、介護支援専門員同士の交流の場となった。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・下半期で介護支援専門員が抱える困難ケース事例等を整理し、困難と思われる理由の分類を行い、ニーズ・課題を抽出する。 ・「ケアマネほっとサポートの会」を継続する。アンケートより地域の介護支援専門員のニーズを把握し、介護支援専門員と関係機関の連携についても支援する。
	⑩介護予防に係るケアマネジメント	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・相談時は、速やかに自宅訪問し、生活状況・課題の把握に努めた。 ・介護予防ケアマネジメントは、個々のニーズに合わせて、いきいき体操や地域サロンやいきいきセンター等を紹介をし、地域とのつながりを持ちながら自立支援・介護予防に向けた計画づくりを行った。 ・給付管理の際、初回加算を算定した利用者の一覧表を作成し、毎月、新規利用者の提出書類が確認をできる仕組みを作った。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・委託を依頼する居宅介護支援事業所の確保では決定するまで時間を要するが、今後も情報を集め対応していく。
	⑪市町村事業との連携	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅医療・介護連携に関する研修会等に積極的に参加し、医療・介護の関係機関との関係づくりと地域の医療資源を把握した。 ・退院支援に関しては、スムーズな退院調整につながるよう、初期段階から介護支援専門員との連携を意識し関係機関と連携を図った。 ・認知症カフェは上半期(北一会館)で1回行ない参加者たちの交流が多くみられた。認知症予防となる参加型のマジックショーを取り入れ、地域の情報交換や交流の場となった。 ・認知症初期集中支援チームとの連携は、定期的にケースの相談ができており、2ケースに対して連携し支援を行った。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症に関する相談や、身体機能等の低下により定期受診が中断しているケース等の相談が増えてきているため、在宅医療(住診・薬局)等に関する地域の状況を整理する。 ・地域資源の把握につながるよう、研修会や介護・医療連携推進会議を活用する。また、担当地域内の社会資源(医療機関)の視覚化(マップ作り等)を行っていく。
自由記載		<ul style="list-style-type: none"> ・中山鬼越地区民生委員の方と交流会を開催した。あらかじめアンケートを取り、当日は有意義な内容となった。認知症高齢者の見守りに関する情報等、地域課題に関する情報の共有を行った。 ・あんしん電話設置者の状況は、介護保険サービス等の利用に繋がっていない利用者をリスト化し、下半期に、定期連絡を行い見直しをする。 ・地域内のてるぼサロンで「いちかわ東部だより」等を活用し消費者被害等の啓もう活動や依頼講座(体力測定等)を実施した。参加者の年齢層等を考慮し、日常生活に活かせるよう工夫した。 ・継続支援の分析を行い、地域ごとの特徴を知ることができた。 	

令和元年度上半期

特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫など

東部圏域 高齢者サポートセンター信篤・二俣

高サポ＝高齢者サポートセンター、そら＝市川市生活サポートセンターそら、えくる＝基幹相談支援センターえくる、がじゅまる＝中核地域生活支援センターがじゅまる

項目		内容	
I 運営に関するもの	④組織・運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 支援拒否・多問題ケースへは複数支援体制にし、多職種でのアセスメントができるようにした。 事業所内での迅速なケース報告、共有化により、チームアプローチを可能とした。 	
	⑥利用者満足の向上	<ul style="list-style-type: none"> 苦情はなし。複数支援体制を行うことにより、課題の明確化と迅速な対応が可能となった。 	
II 個別の業務に関するもの	⑦総合相談支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 継続支援台帳を作成した。継続フォロー者を定期的に訪問し、フォローを行った。 支援拒否事例や多問題事例は三職種で課題分析を行い、方策の漏れがないように注意した。 連絡待ちケースのフォローもれがないように連絡待ちフォローのボードを作成した。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者クラブからの依頼講座では、介護保険は自立支援が理念となっている事の周知の努力が足りないとのご指摘を受けた。来年2月、その方の事例を使って（ご本人の許可あり）事例検討を予定している。 独居高齢者の支援ニーズ（買い物、通院同行、閉じこもり）について、ニーズを下半期から抽出することとした。
	⑧権利擁護業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員会議や高齢者クラブの集まり、高サポ便り等の様々な機会を通して、消費者被害についての啓発を、市川市消費生活センターから毎月届く消費生活情報を参考に行った。 成年後見制度に関して、社会福祉協議会の後見相談担当室・介護福祉課とともに協働して支援を行った。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 今後も地域のサロンや高齢者クラブ等と連携し、消費者被害や後見等の啓発を機会をとらえて行なっていく。
	⑨包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 困難ケースの支援を介護支援専門員とともに行った。困難ケースの支援方針に関しては、圏域会議において、他高サポの専門職の意見を聞くことにより、支援者中心の方策になっていないか点検しながら支援を行った。 担当エリア内の薬局に居宅療養管理指導を行っているところの確認を行い新規開拓することができた。 介護支援専門員からの相談内容を分類する表を作成し、相談受報時に記入するようにした。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員への困難ケースの支援を、高サポ職員も共に行っていく。
	⑩介護予防に係るケアマネジメント	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 主任介護支援専門員を中心に、高サポ職員が経験年数の少ない介護支援専門員や1人配置である居宅介護支援事業所の介護支援専門員の支援を要支援の方を依頼時に一緒に退院支援の場に同席する等行い支援を行った。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 必要時、経験年数の少ない介護支援専門員からの相談が高サポにあった場合、所属する居宅介護支援事業所とともに担当介護支援専門員への支援を行っていく。
	⑪市町村事業との連携	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 信篤・二俣地区医療介護学習会・交流会を開催した。多くの介護支援専門員、サービス事業所職員等が参加し好評だった。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関より、若年性認知症の方への地域での取り組みについての相談があり、来年3月頃を目標に家族介護者交流会とは別に、若年性認知症介護者の交流会を開催を検討中。
自由記載		<ul style="list-style-type: none"> 予防プラン、暫定プランの委託を依頼する居宅介護支援事業所の確保に時間を要するが、今後も情報を集めていく。 	

令和元年度上半期

特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫など

南部圏域 高齢者サポートセンター行徳

高サポ＝高齢者サポートセンター、そら＝市川市生活サポートセンターそら、えくる＝基幹相談支援センターえくる、がじゅまる＝中核地域生活支援センターがじゅまる

項目		内容	
I 運営に関するもの	④組織・運営体制	ケースに応じて三職種が役割分担をして対応しているが、毎朝事例報告をして、他職種の意見を取り入れながらケース対応及び介護支援専門員対応を行っている。	
	⑥利用者満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> 高サポの入口にセキュリティーがあり、自由に入れないことに対する苦情があった。 来所時に面接室が使用中の場合や二階まで階段を登れない相談者には病院の面接室を利用したり、廊下を使用して面接をした。 今後はプライバシーを保つためにパーティションを利用するなどの工夫が必要であると考えている。 	
II 個別の業務に関するもの	⑦総合相談支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援課や民生委員から支援依頼があり、連携して継続対応を行っている。 地域のサロンに毎回出席し、講座の周知と相談対応をしている。 時間外での緊急対応や、就労家族の要望に合わせて時間外での訪問を行った。 定期見守り訪問を行い、変化に気付く様になっている。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 独居、高齢者夫婦ではなく、複合家族で関係が希薄なケースや認知症などにより家族内のバランスが崩れた時の対応の難しさを感じている。関係部署や地域との連携を行うことで解決策を見出していく。
	⑧権利擁護業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 消費者被害の講座について、民生委員や自治会等に周知を行い市川市消費生活センターと協力しながら出前消費者講座を今後二回開催予定。 虐待ケースに対応し再発もあったが、改善や解決に至っている。 社会福祉協議会と連携し、継続支援をしている。 地域に不審者や怪しい業者等がないかどうか定期的に気を配りながら、見守り訪問を行っている。発見した時は行政に報告し、被害防止に努めている。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 今後も消費者被害の講座の周知を行い、消費者生活センターと連携して、被害防止に努めて行く。 虐待事例は介護支援専門員と情報共有等を行い、連携して支援を行い解決していく。
	⑨包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員には気づきを促す関わりを心掛けている。 介護支援専門員にケースを繋ぐ時には、介護支援専門員が支援しやすい様に事前に家族調整等を行い、支援が安定するまでは介護支援専門員と共に支援を行った。 介護支援専門員が支援に苦慮している時には高サポの三職種で話し合い、行政とも連携を図り、居宅介護支援事業所の管理者を含め支援について話し合い、対応等を検討している。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員の個別ケースについて地域ケア会議を行い、地域課題の発見につなげて行く。
	⑩介護予防に係るケアマネジメント	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 委託している介護支援専門員の帳票提出状況を一覧にして、未提出の介護支援専門員がすぐにわかるようにしている。 介護支援専門員にインフォーマルサービスについて情報提供を行い、みんなで体操等をケアプランに位置づけしてもらっている。 介護支援専門員からもインフォーマルの情報がないか問い合わせが入るようになってきている。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 帳票が未提出の介護支援専門員にはこまめに連絡をし続ける。 事業対象者が地域資源のサービス等につながるよう支援していく。
	⑪市町村事業との連携	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 認知症初期集中支援チーム、えくる、がじゅまる、そら、障がい者支援課等と連携して支援した。 家族介護教室（介護技術の講座）を開催し42名の方が参加した。 地域のお祭りに参加し地域とのネットワークを構築している。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 今後も地域のイベントには参加し協力して地域とのネットワークを構築して行きたい。 民生委員と介護支援専門員との連携強化の為、南部圏域内高サポと連携して交流会を開催したい。
自由記載		<ul style="list-style-type: none"> 介護保険サービスの利用について、中立公正をはかる為に、毎月の事業所の利用状況を表にまとめて、見える化している。 地域支え合いマップを更新し地域、関係機関に配布周知した。出来あがったマップは掲載した店舗に挨拶も含めお渡しした。 	

令和元年度上半期

特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫など

南部圏域 高齢者サポートセンター南行徳第一

高サポ＝高齢者サポートセンター、そら＝市川市生活サポートセンターそら、えくる＝基幹相談支援センターえくる、がじゅまる＝中核地域生活支援センターがじゅまる

項目		内容	
I 運営に関するもの	④組織・運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日朝礼で情報共有、週1回ミーティングを行い、意見交換やケースの検討・進捗管理を行っている。 ・本人・家族・医療機関・民生委員などから高齢者のニーズの把握をしている。 ・圏域内のいきいき健康教室やみんなで体操に訪問したり、行徳新聞を活用して、高サポの周知を行っている。 ・住民票は他市にあるが、生活の実態は市川市にある人からの相談も多く、総合事業や地域密着の事業所等の制度を理解していただくのに苦慮している。 	
	⑥利用者満足の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情はなし 	
II 個別の業務に関するもの	⑦総合相談支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・初回対応受付表を改定し、ニーズ把握や緊急レベルの記入欄を追加した。先々の見通しを持って対応する意識づけになっている。 ・高サポで把握している介護保険制度につながない独居高齢者等は定期的な訪問や電話で状況確認している。 ・その中に、熱中症で救急搬送されたケースもいて、介護保険の申請につなげる等迅速な対応をすることができた。 ・セルフネグレクトの事例について地域ケア会議を行い、地域や支援者、関係機関からの情報を共有し、支援につなげた。 ・不動産屋からの相談で、認知症高齢者の家賃滞納の支援を行った。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・初回相談内容を数値化等により分析し、地域の特徴や課題把握につなげたい。
	⑧権利擁護業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員が抱えているケースに高サポから積極的にアプローチし、成年後見制度につなげた。 ・初めて虐待ケースを経験した介護支援専門員に対し関係者会議を開き、助言や情報提供を行った。 ・消費者被害防止に関しては消費生活センターからのメールマガジンを、相談員会議や民生委員地区協議会等で周知啓発している。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・一般相談、予防プラン評価時を含め、必要と思えるケースは成年後見制度、てるぼサポートの周知、活用等積極的にかかわり、関係機関と連携していく。 ・家族介護教室で成年後見制度の研修会を開催する。
	⑨包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・南部圏域3高サポで合同事例検討会を原則毎月開催している。 ・困難事例（多問題）ケース等は特定事業者へ、介護支援専門員が一人の事業所には協働の促しや担当者会議出席にてフォローしている。 ・南部圏域に共通した課題である障害サービスをテーマに、「南部圏域ケアマネ研修会」を開催した。 ・南部圏域介護支援専門員研修会の企画や合同事例検討会等で、圏域の主任介護支援専門員全員と連携する機会が多くなった。 ・介護支援専門員からの困難ケース（生活困窮や高次脳機能障害、パーソナリティ障害等）の相談を受けている。医療相談を活用し、医療的相談の対応もしている。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・南部圏域3高サポでの事例検討会を定着していく。 ・事例検討にとどまらず、居宅介護支援事業所との連携強化のための取り組みをすすめていく。
	⑩介護予防に係るケアマネジメント	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・委託ケースの介護支援専門員に対する適切な助言のために、ケアプランを把握し、介護支援専門員に適宜声かけをしている。 ・担当者会議に出席した時は、趣味や楽しみを聞き、本人の楽しみや生きがいなど強みを生かす視点を持ってよう働きかけている。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域高サポとの連携強化、制度説明や地域性のある課題、多職種連携等を検討していきたい。
	⑪市町村事業との連携	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・従来のケアマネ研修の一環として行ってきた民生委員との交流は、研修の位置づけから南部圏域3高サポの開催とし、より高サポと介護支援専門員とのネットワークを重視する方向で開催する。 ・介護保険をテーマに開催した家族介護教室は、外部講師を呼ばずに高サポ自前で開催した。グループに高サポ職員が入り話し合うなど、高サポが地域住民の身近な相談機関であることを理解して頂けるよう工夫した。 ・住まいの相談で、がんばりの会のシェルターにつなげた事例があった。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題分析の精度をあげる方法について検討していきたい。 ・認知症高齢者の家族へ、病気の理解のための普及啓発活動をすすめていく。 ・医療介護連携として、医療機関のソーシャルワーカーと交流を兼ねた学習会を開催する。
自由記載		<ul style="list-style-type: none"> ・家族介護教室や認知症カフェの年間日程を早期に決定し、主担当・福担当が積極的に取り組んでいる。 ・前期の新規相談件数が昨年前期と比較し33%増加している。介護支援専門員からの相談も含め、権利擁護、多問題ケースも増加しており、今後も関係機関との連携をとりながら業務にあたる。 	

令和元年度上半期

特筆すべき事項、発展的な取り組み、先進的な取り組みや工夫など

南部圏域 高齢者サポートセンター南行徳第二

高サポ＝高齢者サポートセンター、そら＝市川市生活サポートセンターそら、えくる＝基幹相談支援センターえくる、がじゅまる＝中核地域生活支援センターがじゅまる

項目		内容	
Ⅰ 運営に関するもの	④組織・運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者ニーズは、民生委員からの情報やほっとスペース等のサロンで、実際に高齢者に会って把握している。 毎朝のミーティング又は、事務所内のホワイトボードにメモを残す等で、情報共有を図っている。 	
	⑥利用者満足の向上	<ul style="list-style-type: none"> 事務所はガラス張りになっており、入りやすい環境になっている。 相談場所は事務所前の机の他、個室も希望に合わせて使用出来る。 	
Ⅱ 個別の業務に関するもの	⑦総合相談支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 週1回のミーティングにて、ケースの進捗情報を確認し、支援方針を共有した。 ケース資料を別ファイルにして誰でも確認出来るようにした。 地域の病院、サービス事業所等が主催の研修には積極的に参加して、関係機関との連携に努めた。 圏域会議に地域のインフォーマルサービスの状況を紹介時間を設けて共有した。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 相談分類を分析するためマップにマークをつけ、地域課題を明らかにしていきたい。 研修への参加等を通じて、職員個々の対応力を向上させていきたい。
	⑧権利擁護業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 成年後見制度に繋がった利用者は、後見人や介護支援専門員等と連携して課題解決に向けて支援した。 虐待ケースにおいて、警察署と連携して訪問や情報共有を行った。 消費生活センターを講師に、地域住民向けの講座を開催し、消費者被害防止の啓発活動を行った。 独居高齢者宅に訪問する機会の多いヘルパー事業所向けに、詐欺被害についてのリーフ作成を行った。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 成年後見制度等の啓発するための講座を地域向けに開催したい。 作成した消費者被害防止啓発のリーフレットをヘルパー事業所向けに送付し、注意喚起を行う。
	⑨包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 地域の介護支援専門員の知識や技術の向上を目的とした事例検討を、月1回のペースで開催した。 圏域介護支援専門員研修会にて、障がいサービスについての知識を深める研修会を実施した。 介護支援専門員からの相談は、相談シートを利用してもらい、依頼のあった内容について共に支援した。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 地域の介護支援専門員と事業所が連携出来る環境を作るための研修会、交流会の開催を予定。
	⑩介護予防に係るケアマネジメント	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 状態の不安定な利用者に対して、半年毎にADL、IADLをチェックするシート活用を試みた。 介護保険以外の市の事業や地域の社会資源を出来る限りプランに位置付けるようにした。 委託ケースについて、介護支援専門員が1人の事業所や帳票未提出の介護支援専門員には、特に注意して声掛けし、支援するようにしている。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 総合事業を知らない地域の高齢者が多く、自治会の依頼を受けて啓発を行う予定である。
	⑪市町村事業との連携	工夫した取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェを通じて、地域の住民に認知症への理解を深めてもらうことが出来た。 認知症初期集中支援チームと協力して、認知症の方への支援を行った。 医療機関との連携研修等へ積極的に参加し、医療機関と連携を図れる関係作りに努めた。
		今後取り組みたいこと	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き地域の医療機関の研修会等に参加し、入退院時の連携などを確認していきたい。 担当地区で行われる地域ケアシステムのお互いさま事業のモデル実施に協力していきたい。
自由記載		<ul style="list-style-type: none"> 自治会や地域ケアシステム等、高サポ開設当初より継続している地域と連携したサロンはほぼ毎月開催している。後期もこの事業を継続し、高齢者に必要と思われる情報提供や啓発活動を行っていきたい。 	

第2回市川市介護保険地域運営委員会	資料2
令和元年11月15日(金)	

介護予防支援事業等業務の委託事業者の追加について

ケアプラン作成委託契約を締結した事業所一覧

受取期間：令和元年7月29日～10月17日

番号	事業所・施設の名称		事業指定年月日	高齢者サポートセンター名
	サービスの種類	〒	連絡先	
	事業者番号	所在地		
1	ケアライズ		2019年3月1日	菅野・須和田
	居宅介護支援 1270805326	〒272-0035 市川市新田4-12-17-104		047-704-9760
2	ケアプラン アンダンテ		2007年5月1日	大柏
	居宅介護支援 1270802091	〒272-0811 市川市北方町4-2341-8		047-318-5155
3	ケアプランセンター北方邸		2018年12月1日	国分
	居宅介護支援 1270805300	〒272-0811 市川市北方町4-2019-31		047-338-0772
4	イリーゼ・ケアプランセンター船橋塚田		2019年3月1日	市川東部
	居宅介護支援 1270908856	〒273-0044 船橋市行田1-40-21		047-430-8100
5	ケアサポート紡ぐ		2010年4月1日	市川東部
	居宅介護支援 1270802737	〒272-0831 市川市稲越町482-16		047-373-4011
6	ケアライズ		2019年3月1日	信篤・二俣
	居宅介護支援 1270805326	〒272-0035 市川市新田4-12-17-104		047-704-9760
7	くるみ介護サービス市川店		2011年11月1日	南行徳第二
	居宅介護支援 1270803214	〒272-0033 市川市市川南1-3-21		047-325-8222
8	須和田ケアプランセンター		2008年4月1日	国分
	居宅介護支援 1270802356	〒272-0825 市川市須和田2-25-11		
9	牛久さくら園居宅介護支援事業所		2000年4月1日	信篤・二俣
	居宅介護支援 871900189	〒300-1232 茨城県牛久市上柏田1-18-4		029-878-0711
10	ベネッセ介護センター本八幡		2016年9月1日	大柏
	居宅介護支援 1270804881	〒272-0023 市川市南八幡4-8-9 ニューグリーンビル501号		047-300-8521
11	西千葉介護相談所		2016年9月1日	信篤・二俣
	居宅介護支援 1270104670	〒260-0033 千葉市中央区春日2-20-1 プレミアムレジデンス西千葉春日902号		043-375-4238
12	ケアプランセンター北方邸		2018年12月1日	大柏
	居宅介護支援 1270805300	〒272-0811 市川市北方町4-2019-31		047-338-0772

番号	事業所・施設の名称		事業指定年月日	高齢者サポートセンター名
	サービスの種類	〒	連絡先	
	事業者番号	所在地		
13	ファミリアケアプランセンター		2013年10月1日	国分
	居宅介護支援 1270906512	〒273-0042 船橋市前貝塚町1007-8-101		047-401-3677
14	リンドレ居宅介護支援事業所		2019年7月1日	行徳
	居宅介護支援 1270909052	〒274-0816 船橋市芝山3-30-7号棟204号室		047-401-0862
15	ケアプランセンター北方邸		2018年12月1日	八幡
	居宅介護支援 1270805300	〒272-0811 市川市北方町4-2019-31		047-338-0772
16	みずたま介護ステーション浦安ケアプランセンター		2016年7月1日	南行徳第一
	居宅介護支援 1273201226	〒279-0002 浦安市北栄1-2-25 アドバンスビル3階B		047-700-6671
17	みやびサポート		2009年7月1日	大柏
	居宅介護支援 1372204444	〒125-0054 葛飾区高砂3-22-2		03-3672-1139
18	ケアサービスリサリサ		2018年10月1日	南行徳第一
	居宅介護支援 1273201382	〒279-0003 浦安市猫実1-11-5 ハイツロベリア102号		03-3672-1139
19	ひまわり		2017年1月1日	信篤・二俣
	居宅介護支援 1270804956	〒272-0815 市川市北方2丁目5-9		047-704-9500
20	須和田ケアプランセンター		2008年4月1日	大柏
	居宅介護支援 1270802356	〒272-0825 市川市須和田2-25-11		047-311-4842
21	株式会社 ケアステーション・ポピー		2006年2月1日	信篤・二俣
	居宅介護支援 1270801739	〒272-0822 市川市宮久保1-11-6		047-375-5800
22	ケアプラン 音色		2017年12月1日	信篤・二俣
	居宅介護支援 1270805136	〒272-0823 市川市東菅野2-21-2		047-316-0663
23	幸和ケアセンター江戸川		2019年10月1日	八幡
	居宅介護支援 1372308161	〒133-0061 江戸川区篠崎町7-23-5		03-5666-4801
24	ケアプラン 音色		2017年12月1日	八幡
	居宅介護支援 1270805136	〒272-0823 市川市東菅野2-21-2		047-316-0663

番号	事業所・施設の名称		事業指定年月日	高齢者サポートセンター名
	サービスの種類 事業者番号	所在地	連絡先	
25	ケアプランセンターしずか		2017年6月1日	南行徳第二
	居宅介護支援 1273201283	〒279-0001 浦安市当代島3丁目10番35号		047-316-1035
26	こゝろ来居宅介護支援事業所		2009年2月1日	市川第二
	居宅介護支援 1471903813	〒238-0022 横須賀市公郷町5丁目32番45		046-887-0234
27	くるみ介護サービス市川店		2011年11月1日	行徳
	居宅介護支援 1270803214	〒272-0033 市川市市川南1-3-21		047-325-8222
28	居宅介護支援事業所 ソラスト西船橋		2003年11月1日	宮久保・下貝塚
	居宅介護支援 1270902198	〒273-0031 船橋市西船1-24-1 エクセル青山1階		047-410-1481
29	幸和ケアセンター江戸川		2019年10月1日	市川東部
	居宅介護支援 1372308161	〒133-0061 江戸川区篠崎町7-23-5		03-5666-4801
30	居宅介護支援事業所 ソラスト西船橋		2003年11月1日	八幡
	居宅介護支援 1270902198	〒273-0031 船橋市西船1-24-1 エクセル青山1階		047-410-1481